

我が県土
支え育む
希望郷



美しい

県土づくりNEWS

2021年

6月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第203号
令和3年6月30日発行
編集 県土整備企画室



目次

- 2 一般国道397号新小谷木橋が開通しました！
- 5 土砂災害危険箇所点検合同パトロールを開催しました
- 6 砂防の出前講座を開催しました！！
- 8 地元消防団を対象とした現地説明会を開催しました！
- 10 「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました！
- 11 岩手県知事・東北地方整備局長懇談会が開催されました
- 12 令和4年度政府予算及び東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望を実施

一般国道397号新小谷木橋が開通しました！

岩手県が「復興支援道路」として奥州市水沢で整備を進めている一般国道397号新小谷木橋（L=597.0m）は、令和3年5月31日（月）15時に開通しました。



新小谷木橋供用後の様子（R3.6.10撮影）

【復興支援道路】

しんこやぎはし

一般国道397号新小谷木橋が開通しました！

県南広域振興局土木部

岩手県が「復興支援道路」として奥州市水沢で整備を進めている一般国道397号新小谷木橋（L=597.0m、以下「新小谷木橋」という。）は、令和3年5月31日（月）15時に開通しました。開通に先立ち、10時から五月晴れのもと開通式を開催し、奥州市長、県議会議員、市議会議員などの地元代表者や、岩手河川国道事務所長をはじめとする関係機関の約40人が出席しました。

開通式では、奥州市長、郷右近県議会議員から御祝辞をいただき、羽田地区新橋架橋期成同盟会の佐藤会長からは新小谷木橋の完成に寄せる期待の言葉をいただきました。

その後、テープカットとくす玉開披が行われ、県南広域振興局土木部の道路パトロールカーを先頭に、車両による通り初めが行われました。

【開通式典の様子】



テープカット・くす玉開披



道路パトロールカー先導によるパレード

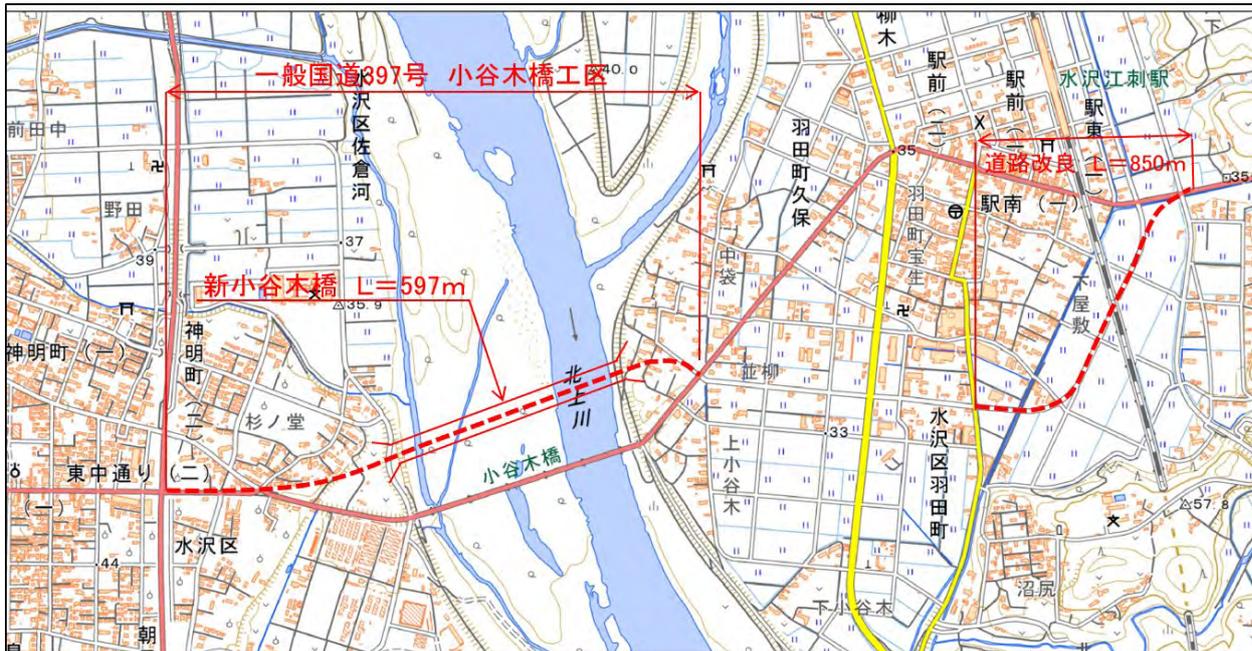


佐々木県南広域振興局長式辞



小沢奥州市長祝辞

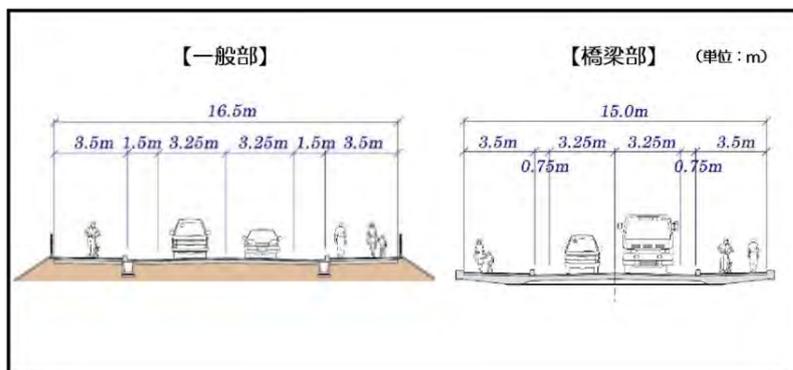
【小谷木橋工区の事業概要】



【計画概要】

計画延長	1,420m	
区間	起点	奥州市水沢東中通り二丁目
	終点	奥州市水沢羽田町
計画幅員	一般部	6.5(16.5)m
	橋梁部	6.5(15.0)m
車線数	2車線	
道路の区分	第3種第2級	
設計速度	60km/h	
事業期間(予定)	2012(H24) - 2024	

【標準断面図】



【事業効果】

【安全で円滑な交通の確保】

- ・小谷木橋の老朽化の進行、幅員狭小といった課題が改善・解消され、安全で円滑な交通を確保

【災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築】

- ・東北横断自動車道釜石秋田線の代替路として災害時等の広域的な道路ネットワークの多重性が強化

【物流・産業振興を支援する道路ネットワークの強化】

- ・内陸部の工業集積地と沿岸部の重要港湾等を結ぶ道路ネットワークが強化され物流の効率化等を促進

【施工時の状況】



ケーソンによる沈下掘削



上部工送り出し架設



桁組立の様子



上部工の連結

開通イベントとして令和3年5月22日に地域住民を対象とした**橋梁ウォーキング**を開催しました。

参加者には、受付の際に検温と手の消毒を行ってもらい、イベント中はマスクの着用をお願いして、**新型コロナウイルス感染症拡大防止**を徹底して開催しました。



受付では検温と手の消毒を徹底しました



職員の説明を熱心に聞いてもらいました



ドローンによる記念撮影も行いました



減多に歩く機会のない車道を歩いてもらいました

土砂災害危険箇所点検合同パトロールを開催しました

千厩土木センター

千厩土木センターでは、6月の土砂災害防止月間における活動の一環として、令和3年6月8日（火）から10日（木）の3日間、土砂災害危険箇所点検パトロールを実施しました。

今回、パトロールを実施した土砂災害危険箇所は、要配慮者利用施設への影響がある箇所や市からの要望箇所など計28箇所を選定し、県（土木センター及び農林振興センター）、一関市、警察、消防、災害対策支援員（地元防災組織等）、砂防ボランティアなど延べ74名の参加をいただきました。

パトロールでは、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策や当日の気温が30℃前後となったため、「熱中症」に十分留意しながら、点検箇所の地形変状及び施設の損傷等が無い点検を行い、無事に各関係機関と危険箇所の状況について共有することができました。

○点検状況



関係機関が合同で点検することは、過去の指摘事項の改善状況等の情報共有、危険箇所の再確認の観点からも有効的な取組であるので、土砂災害から人命を守るため防災・減災の取組の一つとして、今後もコロナ禍ではありますが、対策を講じながら実施していきます。

砂防の出前講座を開催しました！！

沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター

土砂災害及び対処方法に対する正しい知識を身につけることにより、行政の発信する避難情報を待つことなく、自ら必要な情報を入手して適切な避難行動につなげていくことを目的として、「土砂災害から身を守る」というテーマで、岩泉町立小川中学校において、「中学生を対象とした砂防の出前講座」を開催しました。

また、この出前講座の一環として、平成28年台風第10号の際に土砂災害が発生した箇所において実施している砂防堰堤工事の現場見学も行いました。

岩泉町立小川中学校1年生の出前講座は、4年連続4回目の開催になります。

【出前講座概要】

日時	場所	参加者
令和3年6月2日（水） 8:50～15:30	岩泉町立小川中学校 現場見学：岩泉町二升石滝野地区	岩泉町立小川中学校1年生 生徒11名

○出前講座の主な内容○

- ・講義 (近年の土砂災害の傾向や避難方法についてスライドで授業)
- ・模型実験 (模型実験装置を使って土石流や堰堤の施設効果を再現する)
- ・情報検索 (インターネットで土砂災害危険箇所や土砂災害警戒情報等情報収集について学習)
- ・現場見学 (施工中の砂防堰堤工事現場を見学する)
- ・ワークショップ (土砂災害から身を守る方法を話し合う)

【当日の様子】



土砂災害についてスライドで授業



模型実験で砂防堰堤の効果を確認



インターネットで土砂災害警戒区域等を検索



松橋川筋滝野地区砂防堰堤工事

工事中の砂防堰堤を見学



ワークショップで話し合い中



ワークショップでまとめた意見を発表

【参加者からの感想】

出前講座の参加者からは、次のような感想があり、ご好評をいただきました。

- ・「模型を使った説明がすごくわかりやすかった。」
- ・「現場見学で、実際の砂防堰堤の大きさなどがわかった。」
- ・「土石流などの自然による災害への対応なども、自分たちで考えながら学べたので楽しかった。」
- ・「防災学習を通して、たくさんの知識を深められてよかった。もっと調べ、災害に備えたい。」

近年、雨の降り方が変化しており、これまでに経験したことの無いような災害が全国各地で発生している中、「**自らの命は自ら守る**」意識が大切です。土砂災害について正しい知識を身につけ、避難について考える機会是非常重要的ですので、これからも引き続き防災学習の取組を行ってまいります！

地元消防団を対象とした現地説明会を開催しました！

県南広域振興局土木部遠野土木センター

遠野市を流れる一級河川小烏瀬川は、平成28年8月の台風第10号により氾濫し、床上・床下浸水26戸（県調べ）のほか、護岸決壊による国道340号等の通行止め、農地の浸水等、甚大な被害を受けました。

このことから、小烏瀬川の延長約6.5km区間において、災害復旧に加えて河川改良を行う災害復旧助成事業を導入し、再度災害の防止と安全度の向上を図るため、工事を全12工区に分割発注し、発災から5ヵ年となる令和3年3月をもって完成しました。



【説明会の目的】

工事完成後初めて本格的な出水期を迎えるに当たり、被災当時水防活動を行った地元消防団の方々を対象に事業完了を周知するとともに、事業の成果等を現地で確認し、今後の水防活動への備えと実務に役立てていただくことを目的として令和3年6月10日（木）に現地説明会を開催しました。

【説明会の様子】

当日は地元消防団をはじめ、地域住民や各施工者の現場代理人等担当者ら約30人が参加しました。また、遠野市消防署・消防団からポンプ車等緊急車両4台の出勤があり、新たに築堤整備した管理用通路を実際に走行・模擬巡視パトロールを行い、水防活動の際の導線を確認しました。

消防団長からは『以前は歩いて河川の状況を確認していたが、築堤を整備したことで車両での通行が可能となり、迅速・安全に巡視できるようになった』と整備に感謝する言葉をいただきました。

【施工前後比較】



【説明会状況】



事業概要説明



模擬巡視パトロール



現地確認



現地確認

「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました

建設技術振興課

令和3年6月16日、「第29回優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を盛岡市のプラザおでっでで開催しました。

この表彰は、優れた建設現場従事者を広く表彰することにより、「ものづくり」に携わっている者の誇りと意欲を増進させ、これらの方々の能力と資質の向上を図るとともに、その社会的評価・地位の向上を図り、**建設業の健全な発展に資することを目的として実施**しているもので、平成5年度から開催しているものです。

今年度の受賞者は6名で、表彰式では菊池副知事から**表彰状と徽章が授与**されました。

【受賞者一覧】

受賞者名	所属会社	所在地
阿部 達也	(株)TERUI	花巻市
上田 哲	東海電業(株)	宮古市
蝦夷森 孝吉	(株)丹野組	二戸市
菅原 昭	(株)永沢水道工業	一関市
高橋 哲也	小田島建設(株)	北上市
和井内 学	(株)山崎組	盛岡市



令和3年度 岩手県知事・東北地方整備局長懇談会 が開催されました

県土整備企画室

6月15日（火）、達増知事と、国土交通省東北地方整備局梅野局長による懇談会が開催されました。

この懇談会は、県内の公共事業について、国土交通省と県の連絡調整を図り、事業の円滑な推進を図ることを目的に毎年実施しているもので、東北地方整備局長から、今年度の直轄事業の事業計画等について説明をいただいた後、知事との懇談が行われます。



東日本大震災津波から10年が経過した今年度は、国により整備が進められてきた復興道路、復興支援道路による整備効果と、今後の利活用の重要性について話題となったほか、平泉の世界遺産登録10周年、御所野遺跡を含む北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産への登録勧告等、地方創生への期待が高まる中で、基盤となる道路等社会資本の重要性が再確認されました。

また、5月1日に発生した、西和賀町の国道107号の通行止めについては、ダム管理者、道路管理者それぞれの立場にある国と県が連携して、地域への丁寧な説明を継続していくことや、復旧に向け、国による技術的な協力体制を確認しました。

更に、近年、気候変動の影響などにより激甚化・頻発化している自然災害に対しては、災害が発生する前の措置、先手の対応が望ましいとの共通認識の下、「防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策」を始めとする、公共事業予算の安定的な確保に向け、予算要求に取り組んでいくことが確認されました。

国、県、それぞれの立場で、県民の安全・安心の確保、経済成長のためのインフラ整備、活力ある地方の創生という共通の目的に向かって、公共事業を展開していくことが確認されました。

令和3年度 東北地方整備局による主な直轄事業	
(1) 流域治水プロジェクトの推進	(6) 宮古盛岡横断道路（箱石達曾部道路）
(2) 一関遊水地建設事業	(7) 国道4号北上花巻道路
(3) 北上川上流ダム再生事業	(8) 国道4号盛岡南道路
(4) 5か年加速化対策による河川・砂防事業	(9) 久慈港湾口防波堤整備事業
(5) 三陸沿岸道路（田野畑道路、野田久慈道路）	(10) コロナ禍におけるクルーズ船 受入態勢の確保

令和4年度政府予算及び東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望を実施

県土整備企画室

6月17日、県は、令和4年度政府予算の概算要求に向け、「令和4年度政府予算及び東日本大震災津波等からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望」を行いました。

県では、「いわて県民計画（2019～2028）」において、東日本大震災津波からの復興の柱として「安全の確保」、「暮らしの再建」、「なりわいの再生」、「未来のための伝承・発信」を掲げ、より良い復興、「ふるさと岩手・三陸の創造」に、全力で取り組むこととしています。

また、地方創生も、復興と並ぶ本県の喫緊の課題であり、「第2期岩手県ふるさと振興総合戦略」を策定し、「岩手で働く」「岩手で育てる」「岩手で暮らす」「岩手とつながる」の4つを柱に、岩手への新しい人の流れを生み出すための取組を進めているところです。

こうした本県における復興と地方創生の推進には、復興事業完了までの支援の継続や、地域特性に応じた取組を推進するための財源の確保などが不可欠であることから、ウェブによる面会で、知事から国土交通省小林大臣政務官に、本県の現状と課題について、丁寧に説明しながら要望活動を行いました。



▲ 知事による令和4年度政府予算に係る提言・要望活動（ウェブによる面会の様子）

【県土整備部関連の主な要望項目】

- 復興道路の全線完成
- 復興事業（ハード事業）完了までの支援の継続
- 津波対策施設に係る維持管理費等に対する財政措置
- 被災者の生活再建に対する支援
- 公共事業予算の安定的・持続的な確保
- 宮古盛岡横断道路の指定区間編入及び全線高規格化
- 直轄事業の推進
- 災害に強い県土づくりへ向けた防災・減災対策への支援 等

※ 要望書の内容は、県ホームページで公開しています。

「岩手県 令和4年度政府予算及び新型コロナウイルス感染症対策に関する提言・要望」で検索できます。